

ウクライナ戦争 — 海事状況への影響

こちらは、英文記事「[War in Ukraine - impact on maritime situation](#)」（2022年3月29日付記事の4月5日付更新）の和訳です。

この更新は日本時間 2022年4月5日 18:15 時点の**最終更新版**です。

原文記事は逐次更新されております。和訳の更新にはタイムラグが生じますので、最新状況については原文記事をご参照されることをお勧めします。



ウクライナで進行中の戦争は、黒海とアゾフ海の港に寄港する船舶にかなりの影響を与えています。状況は流動的であり、時間ごとに変化しています。

最新情報

ウクライナとロシアの現地 Gard コレスポンデントやその他の情報源から受領した情報によると、ウクライナ、ロシア、アゾフ海、黒海の状況は次のように報告されています。

- **機雷の設置されているエリアと漂流する機雷**
 - ウクライナの海岸近くの黒海の北西部に機雷が設置され、そして最近では、これらの機雷のいくつかが係留から解き放たれ、漂流して南に漂流しているという報告があります。NATO 海事センター（[NSC](#)）によると、漂流する機雷が確認され、ボスポラス海峡の入口に極めて近い場所で発見されたものもあり、当局が機雷の発見と無害化を試みているとのこと。
 - 黒海の西部を航行する船の船長は、乗組員にこの潜在的な脅威を認識させ、浮遊物体を回避し、本船のオモテ側には船員を立ち入らせないようにし、効果的な見張り方法を用いるよう

にしてください。発見したものは全て現地当局に報告すべきです。

- また、船長は、機雷設置地域に関連する [NAVAREA III](#) の警告を入手し、追加情報について地元の港湾当局および船舶代理店に連絡をとり最新情報を入手することをお勧めします。
- ルーマニアなどの特定の国では、港に到着または出発するときに船舶が従うべき航路に関する推奨事項があります。船舶は、地元の代理店または港湾当局に確認することをお勧めします。

● **ロシアの港へ寄港する際のリスクの増加**

- [ロシアからの物品の輸出に禁止と制限を課すいくつかの法令](#)の最近の採択は、西ヨーロッパ諸国に関連する船舶がロシアの港に拘留され没収されるリスクを高める可能性があります。2022年3月25日の警告で、ノルウェー海事局（[NMA](#)）は、船舶がすでにロシアの港に拘留されていることを報告し、ロシアの港に寄港する予定の場合、船舶の運航者と船長がロシアの法令の内容を検討することを推奨しています。また、ポートステートコントロール検査に選ばれ、拘留されるリスクもあります。執筆時点では、上記の法令の正式な英語訳はありません。したがって、オペレーターと船長は、貨物を修理する前に、その貨物が施行されている禁止事項の対象になっているかどうかをロシアの現地代理店に確認することをお勧めします。
- 船長は、ウクライナの乗組員が乗船している船舶は、ロシアの港に寄港する際に、ロシア当局による追加の精査、およびその乗組員が尋問される可能性があることに注意する必要があります。2022年2月28日、Gardのメンバーは、ロシアの入国管理官を装った武装した要員が、ロシアの黒海以外の港に停泊している船に乗り込み、尋問のためにウクライナの乗組員の一部を陸上に連行したと報告しました。ロシアの武装した要員は船上に留まり、船内の残りのウクライナ人乗組員も同様に尋問されたとのことでした。その後、同様の事件が他の業界筋からも報告されています。

● **港湾状況**

- アゾフ海は、ケルチ海峡でロシア海軍により、商業船に対して閉鎖されています。
- 黒海の北西部、緯度 45°21'以北へのアクセスは、ロシア海軍によって禁止されています。
- ウクライナのすべての港は操業を停止していると報告されています。 [IMO Circular Letter No.4518](#)によると、ウクライナ政府は、すべての港が現在 MARSEC レベル 3 にあり、「閉鎖され出入港できない」と助言しています。
- ウクライナの港内またはその近くで、港湾インフラに対する攻撃が発生する可能性があり、ウクライナに寄港中の船舶と乗組員は巻き添え被害を受ける可能性にさらされることとなります。砲撃により数隻の船舶が被害を受けたという報告があります。
- 黒海に拠点を置くすべてのロシアの港の運用は日常的に継続されていますが、一部の港では ISPS セキュリティレベルが引き上げられたようです。黒海のロシアの港での貨物の運航が絶対に必要な場合は、最初に港湾施設保安官（PFSO）と保安宣言を行うことをお勧めします。
- トルコ、ジョージア、ブルガリア、ルーマニアの EEZ 内の商業活動は継続されていると報告

されていますが、これらの港においても ISPS セキュリティレベルが引き上げられたようです。海運会社の [Wilhelmsen](#) が、黒海エリアの最新の港湾制限に関する有用な情報を定期的に更新しています。

- 乗組員の港湾都市への移動は、戦闘作戦の影響を受ける可能性があります。道路が封鎖され、空港と空域が閉鎖され、通過がさらに制限される可能性があります。

今後の更新があり次第、このセクションを更新します。ただし、状況は急速に変化する可能性があるため、黒海地域の港に航行する船舶運航者と船長は、地元の情報源を頻繁にチェックすることを強くお勧めします。船舶代理店、ガードのコレスポンデントなど、いつでも利用できる最新の信頼できるセキュリティ情報を入手してください。

その他ナビゲーション関連の課題と注意

米国連邦海事局（MARAD）の [勧告 2022-004](#) は、船舶が直面する可能性のあるリスクの1つは、黒海およびアゾフ海を航行する際の GPS 干渉、AIS スプーフィング、および/またはその他の通信妨害であると指摘しています。GPS 干渉が発生している船舶に関する追加のガイダンスは、MARAD の [勧告 2022-005](#) に記載されています。電子戦争が繰り広げられる可能性があるという報告もあります。もしそうなら、それは船舶の電子システムに影響を与える可能性があります。

また、この地域の航行制限により、船舶の活動に混乱をきたす可能性があります。執筆時点で、AIS データは、紛争の開始以来の船舶の交通量と密度の減少を示しています。ただし、ボスポラス海峡の両側に依然として停泊中または漂流中の船舶の集結があるかもしれませんので、船舶は、他の船舶から安全な距離を保ち、鋭い見張りを保ち、エンジンを操縦できるようにすることをお勧めします。

海事安全保障

状況は不安定で変化し続けており、関連地域で運航するすべての船舶は、状況を注意深く評価し、注意を払い、事故が発生した場合に備えて、危機連絡計画を含む関連する緊急時対応計画を確認することをお勧めします。船舶所有者と管理者は、黒海地域に向かう船舶の船員が、特定の地理的貿易地域における安全上の脅威を認識していることを確認する必要があります。

船舶は、ISPS コードのセキュリティレベルに関するセキュリティ情報を旗国政府から受け取っている可能性があります。一例として、2022年2月24日、[NMA](#) は、黒海北部とアゾフ海で運航するノルウェー籍船のセキュリティレベルを MARSEC / ISPS3 に引き上げました。マーシャル島は、ウクライナの EEZ で運航している船舶について、[船舶保安勧告 02-22](#) で同様の対応を実施しました。そのような指示が受け取られない場合は、船舶の旗国にこの点を追求することをお勧めします。アゾフ海と黒海の禁止区域内またはその近くで運航する場合、船舶は常に AIS をオンにして、VHF の意図を明確に述べることもお勧めします。旗国からの追加の指示と通知は、ロイドレジスターのウェブサイトからダウンロードすることもできます（「[ウクライナに関連して旗国から受け取った最新情報](#)」）。

報」)。ただし、オペレーターとマスターは、いつでも利用できる最新の指示を受け取るために、旗国政府との連絡を維持することを強くお勧めします。

船舶は、AIS 信号を発信していることを確実にし、SOLAS とその旗管理の規定に従って、VHF 全体でその意図を明確に述べ、VHF チャンネル 16 を監視する必要があります。ただし、[IMO ガイドライン](#)に従い、「船長が AIS の継続的な運用により船舶の安全性やセキュリティが損なわれる可能性があると考えられる場合、またはセキュリティインシデントが差し迫っている場合は、AIS をオフにすることができます。AIS がオフになっている日付、場所、時刻は、その理由とともに船の航海日誌に記録する必要があり、船長は危険源がなくなったらすぐに AIS を再開する必要があります。

事件や疑わしい活動が発生した場合、船舶は旗国政府、現地当局並びに [NSC](#) に通知する必要があります。軍用船から要求を受けた船舶は、その指示に完全に従う必要があります。

NATO が海軍と商船の相互作用に関する文書「[ATP-02.1 - 海軍協力と海運ガイダンス \(NCAGS\)](#)」が現在の状況に関連している可能性があることは注目に値します。NATO は紛争の当事者ではありませんが、この出版物には、武力紛争や戦争の分野をナビゲートする際に考慮すべき多くの要因に関する多くの貴重な情報が含まれています。関連するアドバイスは、海賊行為以外の脅威を概説している[グローバル海賊対策ガイダンス](#)の付録 A から取得できます。

トピックページ「[War in Ukraine](#)」では、Gard が発行したすべての関連サーキュラーの概要と、船舶の運航者、船長、乗組員がウクライナと黒海地域で進行中の状況に警戒を怠らず準備と対応を行うために役立つ、いくつかの有用な外部ウェブサイトとガイドラインへのリンクを提供します。

JWC リストエリアにウクライナとロシアの海域が追加されました

ウクライナにおける戦争状態の結果として、ロシアの全ての港および黒海とアゾフ海の一定の海域が、戦争保険委員会 (JWC) により船舶戦争保険 (Hull War, Strikes, Terrorism and Related Perils) の対象地域リストに含まれました (JWLA-030、2022 年 4 月 4 日改訂)。上記の地域に含まれる港に寄港する場合には、船主は戦争リスク保険会社に連絡することをお勧めします。

2021 年 3 月 31 日、JWC は黒海における機雷の脅威に関する通達 (JW2022-009) を発行しました。機雷の数、誰のものか、および黒海南部にどのように漂着したかは現在のところ不明であることが強調されていますが、「沿岸国の処理能力を超えるかなりの数の機雷が存在することが判明した場合、JWC はリストされたエリアの再評価に動きます。」

JWLA の最新バージョン、および委員会のすべての会報/サーキュラーは、[JWC の Web サイト](#)で入手できます。

英国海運会議所、Nautilus International、RMT union で構成される [Warlike Operations Area Committee](#) (WOAC) は、黒海の北緯 44 度以北にあるすべてのウクライナ、ロシア、公海を「戦闘的活動地域 (Warlike Operation Area)」と宣言しました。

このアラートはウクライナの *Dias Marine Consulting PC*、ロシアの *Novorossiysk Insurance Company Nostra Ltd*、トルコの *Vitsan Mümessillik ve Musavirlik A.S.*、ブルガリア・ルーマニアの *Kalimbassieris Maritime* (それぞれコレスポンデント) からの情報に基づいて作成したものです。

本情報は一般的な情報提供のみを目的としています。発行時において提供する情報の正確性および品質の保証には細心の注意を払っていますが、Gard は本情報に依拠することによって生じるいかなる種類の損失または損害に対して一切の責任を負いません。

本情報は日本のメンバー、クライアントおよびその他の利害関係者に対するサービスの一環として、ガードジャパン株式会社により英文から和文に翻訳されております。翻訳の正確性については十分な注意をしておりますが、翻訳された和文は参考上のものであり、すべての点において原文である英文の完全な翻訳であることを証するものではありません。したがって、ガードジャパン株式会社は、原文との内容の不一致については、一切責任を負いません。翻訳文についてご不明な点などありましたらガードジャパン株式会社までご連絡ください。